



注目ポイント

- ✓先週、ドル円は日米協調介入観測を背景に週前半は急速な円高が進み、一時152円台前半まで下落したものの、週末にはFRB次期議長にタカ派寄りと見られるウォーシュ氏が指名され米利下げ観測が後退し、154円台後半へ反発した。国内金利は財政懸念と円高によるインフレ緩和期待が交錯し小幅低下。また、日経平均は円高で輸出株が売られ下落スタート後、米株高や半導体企業の好決算を受け大きく戻す場面もあったが、衆院選の不透明感から上値は重かった。
- ✓ようやく発表されたFRB次期議長がウォーシュ氏であったことで、「FRBの独立性が維持される」と市場では安堵感が漂っている。それを受けて、今週ドル円は円買い介入を警戒しながらも、ドルが戻りを試す展開となろう。国内金利は、CPI(都区部)低下を受けた利上げ観測後退が低下圧力となるも、長期債の供給も多岐にわたる。一方、日経平均は円高一服と衆院選の与党過半数確保の観測が支えとなり戻りを試す展開が見込まれる。(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2026年1月26日

～

2026年1月30日

市場・指標			1月26日 ～ 1月30日		1月30日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	53,743	52,638	53,323	-524	-1.0%	
	米国	NYダウ (ドル)	49,489	48,460	48,892	-206	-0.4%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	25,020	24,266	24,539	-362	-1.5%	

市場・指標			1月26日 ～ 1月30日		1月30日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年 (%)	2.285	2.210	2.240	-0.015	
	米国	10年 (%)	4.28	4.20	4.24	+0.01	
	ドイツ	10年 (%)	2.89	2.82	2.84	-0.07	

市場・指標			1月26日 ～ 1月30日		1月30日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル (円)		155.35	152.10	154.78	-0.92	
	ユーロ (円)		184.12	181.79	183.43	-0.63	
	豪ドル (円)		108.59	106.08	107.76	+0.42	

市場・指標			1月26日 ～ 1月30日		1月30日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト (ポイント)	2,003	1,954	1,978	-25	-1.2%	
	米国	NY原油 (ドル)	66.48	60.14	65.21	+4.1	+6.8%	
		NY金 (ドル)	5,627	4,700	4,745	-272	-5.4%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2026年2月2日 ~ 2026年2月6日

株式

戻りを試す展開か

日経平均
【予想レンジ】 52,700 円 ~ 54,500 円

- 先週の日経平均は下落。週初、急速な円高進行を背景に、輸出関連株を中心に売りが膨らみ、大幅安でスタートした日経平均は、その後、米株高や欧米半導体企業の好決算を好感し、一時大きく値を戻す場面も。ただ、衆院選の先行き不透明感等から利益確定売りも目立ち、週末にかけて上値の重さが意識された。
- 今週の日経平均は、戻りを試す展開か。円高や長期金利上昇が一服したことに加え、衆院選で与党が過半数を確保する勢いとの報道が買い安心感になろう。また、米国の雇用統計やISM指数等重要指標が、景気の強さを示せば株価の追い風となる見通し。もちろん衆院選結果は依然として流動的で、日米大手企業の決算発表等も確認しながら慎重に相場に向かいたい。



金利 (国債)

もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 2.190 % ~ 2.290 %

- 先週の国内金利は小幅低下。衆院選を巡る財政拡張懸念が金利上昇要因となる一方で、ドル円の急速な円高進行によるインフレ緩和期待や、40年国債の入札結果が好調であったこと等が金利低下要因に。10年国債利回りは週を通して、2.20%台でのみも合いに終始したが、債券買い戻しが若干優勢で、週間ベースでは7週ぶりに低下した。
- 今週の国内金利はもみ合いか。先々週からの急速な円高進行に加えて、30日に発表されたCPI(都区部:1月)が予想を下回ったことで、日銀の早期利上げ観測も後退気味となったことが、債券買い戻し(金利低下)の材料になろう。一方で、熾る財政拡張懸念に加え、長期債の供給(国債入札10年、30年)も多いことから金利低下も限定的か。週末に控える衆院選を巡る報道に注意しながら臨みたい。

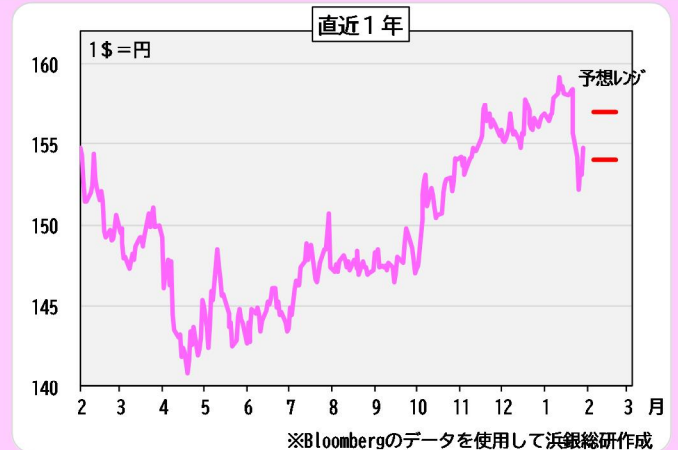


為替 (米ドル)

ドルが戻りを試す展開か

米ドル/円
【予想レンジ】 154.00 円 ~ 157.00 円

- 先週のドル円は、円高ドル安が進展。日米協調介入観測の余韻を背景に週前半は急速な円高が進行し、27日には1ドル=152円台前半(約3か月ぶり)を付けた。その後153円台を中心にもみ合っていたが、30日にFRB次期議長に、予想された候補者の中ではタカ派とされるウォーシュ氏が指名されたことで、米利下げ観測が後退。円安ドル高が進み154円台後半で終了した。
- 今週のドル円は、ドルが戻りを試す展開か。FRB次期議長にタカ派とされるウォーシュ氏が指名されたことや、先週のFOMCでの声明や議長会見が、市場では「ややタカ派寄り」との評価されたことから、米利下げ観測の後退と共に、ドルがジリジリと買い戻される展開となろう。ただし為替介入警戒感から上値も限定的か。

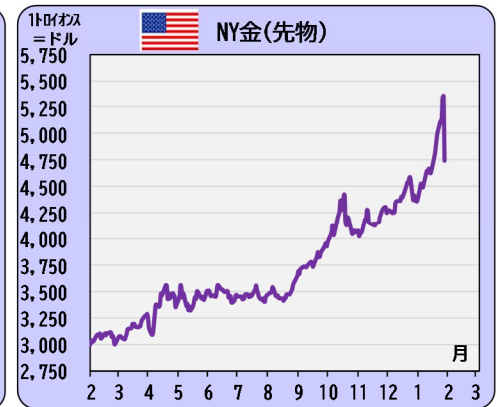
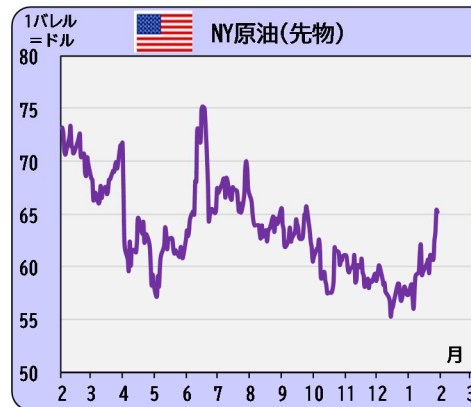
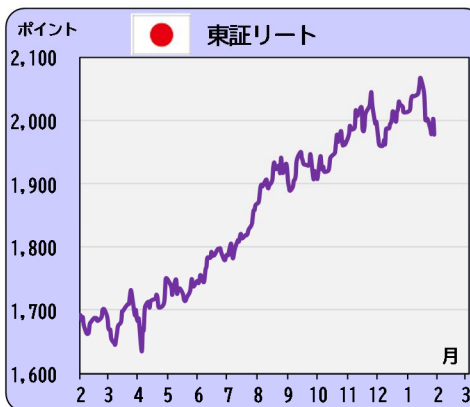
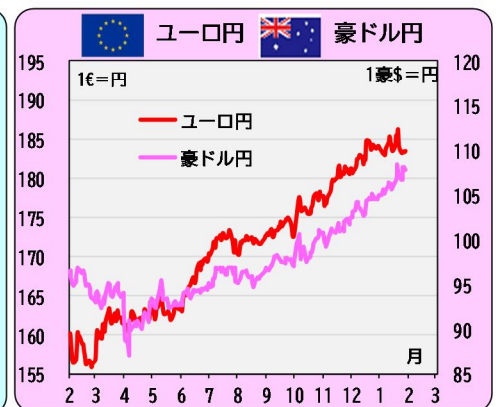
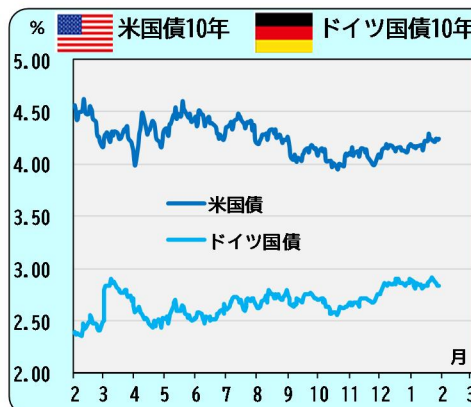
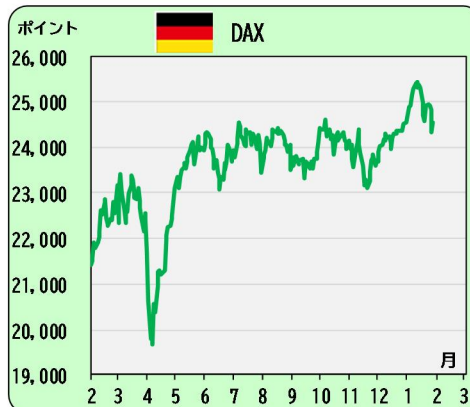
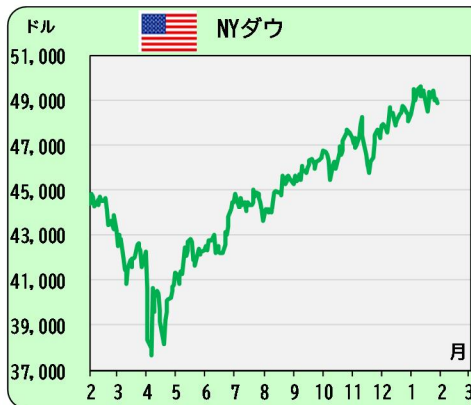


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
2/2(月)	日銀金融政策決定会合にかかる主な意見(1月分)	米国: ISM製造業景況指数(1月)
2/3(火)	国債入札(10年)	
2/4(水)		1-0: ECB定例理事会(~5日) 米国: ISM非製造業景況指数(1月)
2/5(木)	国債入札(30年)	
2/6(金)	家計調査(12月) 景気動向指数(12月)	米国: 雇用統計(1月) 米国: 消費者信用残高(12月) 米国: ミシガン大学消費者態度指数(2月)速報値

③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

●ご留意事項

・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。

・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。